

せんだいしわかばやししょうがいしゃふくし

仙台市若林障害者福祉センター

こうほうし

広報誌

わかばやし

★若林レインボーインフォメーション★

NO. 45

編集・発行:

仙台市若林障害者福祉センター

わかばやし 若林レインボーインフォメーションとは・・・

当センターに入居している4法人（仙台市障害者福祉協会、つどいの家、共生福祉会、自閉症ピアリンクセンターここねっと）が協働して発行している広報誌です。この広報誌が地域の皆様と、当センターのかけ橋になって欲しい、そんな思いを込めて、センターの「今」をタイムリーにお伝えしていきたいと思ひます！

1

管理運営事業
書道楽教室を開催しました

社会福祉法人
仙台市障害者福祉協会

去る令和4年10月15日（土）に仙台市若林障害者福祉センターにて、書家の大塚耕志郎先生をお招きし、在宅障害者や一般市民向けの「書道楽教室」を開催しました。

「書道楽」は、今回講師を務めていただきました大塚先生が唱えておられる「書は人なり」という思想に基づいて、自分らしさを書に表すという大塚先生独自の書道になります。たんに上手な字を書くということではなく、楽しく自由に遊び心も加えながら、書で自己表現するものが「書道楽」になります。また、「書道楽」では、書に用いる道具も選びませんので、割りばしや木の枝など、自由に様々なものを「筆」として用いながら、不思議で個性豊かな書 작품을することも「書道楽」の魅力になります。今回の教室でも、大塚先生から「書」にまつわる楽しいお話を聞かせていただきながら、ご参加いただいた方が「書」で表す自身の特徴や「書」に現れた良い点などについて解説をしていただき、自分の好きな字や家族の名前、自分の好きなものなど、思い思いに個性的で楽しい「書」を作品にさせていただきました。



さっこん がいしゆつ こうりゆうきかい じこひょうげん ば ずく
昨今、外出や交流機会など、自己表現の場がなかなか少ないということもあり
こんご こうりゆう じこひょうげん たの きょうしつ きかく おも
ますが、今後も交流や自己表現できるような楽しい教室を企画していきたいと思ひ
ますので、皆様のご参加をお待ちしております。

もくじ

1. 書道楽教室を開催しました
2. 自立訓練事業紹介 終了者の会を開催しました
3. もしもの時の為に!!
4. 喫茶・軽食 せんしょう庵
5. 「8050問題」～住み慣れた地域で安心して生活するために～
6. 働いて得た給与の使い途
7. インフォメーション

2

じりつくんれんじぎょうしょうかい
自立訓練事業紹介しゅうりょうしゃ かい かいさい
終了者の会を開催しました！じりつくんれん
自立訓練きのうくんれん せいかつくんれん じぎょう
(機能訓練・生活訓練) 事業

自立訓練（機能訓練・生活訓練）事業では、年に2回、自立訓練（機能訓練・生活訓練）事業終了者の会を開催しています。終了された皆様の生活の変化や移行先での様子など、現状を確認させていただき、必要に応じて、社会資源の情報提供を行うなど、皆様の生活のフォローアップを行っております。また、終了者と現利用者の交流を通して、自立訓練終了後の日中活動の場や、仕事の内容などを聞き、有益な情報交換の場となっています。



午前中は終了者と現利用者との懇談会を行いました。初めて会う方や、久ぶりに会う方もいたため、話が盛り上がりました。終了者の方からは、就労している様子や、就労先をどのように決めていったか、また今後はどのようなことに力を入れていくか、などの話を聞くことができ、現利用者にとっても非常に参考になる会だったと思います。

午後は第2回目の終了者の会で行うスポーツレクリエーションについて話し合いを行いました。参加者の皆様からは、モルック、ポッチャ、ゲートボール、ラダーゲッターなど様々な意見を出していただきました。話し合いを進めていった結果、最終的には「モルック」に決まりました。競技は知っているけれどやったことが無いという方が多かったため、次回の参加を楽しみにしております。



～家族交流会も開催しています～

日々の生活の中で、家族の立場から感じていることや、不安に思っていることなど、お茶を飲みながら自由にお話をする事ができます。必要に応じて、職員からも社会資源の情報提供などのアドバイスも行っています。

★利用相談は随時受け付けております。お気軽に若林障害者福祉センターまでお問い合わせ下さい★

連絡先：TEL：022-294-0450 FAX：022-285-2430 Eメール：office-wa@shinsyou-sendai.or.jp

3

せいかつかいごじぎょう
生活介護事業

もしもの時の為に！！

しゃかいふくしほうじん
社会福祉法人

つどいの家

わかばやししょうがいしゃふくし 若林障害者福祉センターとつどいの家では、ぼうさいくんれん ねん かいおこな 年に3回 行っており、せいかつかいごじぎょう 生活介護事業では利用者 と共に参加しています。

くんれんないよう おも じしんさいがい かさいじ かんない おくがい ひなん 訓練内容は、主に地震災害や火災時の館内から屋外への避難です。その都度、つど さいがいそうてい へんこう じっし 災害想定を変更し実施して います。また、さいがいじ 災害時にその場にいる職員で対応できるように、しょきしょうか ひなんゆうどう 初期消火や避難誘導をする人を毎回変更したり、 ふしょうしゃ せってい こと よき 負傷者を設定する事で予期せぬ事態に備えています。じんそく あんぜん ひなんばしょ いどう 迅速かつ安全に避難場所へ移動できるように、利用者・

しょくいんぜんいん 職員全員で訓練しています。
こんごう ひなんくんれん ようす 今号では、避難訓練の様子をご紹介します！

ぼうさいげきん ひなん 防災頭巾で避難だー！



くるまいす のぼ お 車椅子での登り降りもするよー！



けが 怪我した時の たいおうれんしゅう 対応練習もばっちり！



4

しゅうろうけいぞくしえん (がた) しぎょう
就労継続支援 (B型) 事業きっさ けいしょく あん
喫茶・軽食 せんしょう庵しゃかいふくしほうじん
社会福祉法人せんだいいししょうがいしゃふくしきょうかい
仙台市障害者福祉協会

いつもせんしょう庵をご利用 頂きありがとうございます。

せんしょう庵では、利用者様が 考 えて作製したイラストやちぎり絵
など の作品を、各店舗に展示しております。

また、就労支援センターにも色とりどりの作品を飾らせて 頂い

ております。どの作品も、一人一人の利用者様の思いのこもった
作品となっております。もちろん、せんしょう庵 若 林 喫茶にも展示

しておりますので、近くにお越しの際はお食事を召し上がりなが

ら、ぜひ作品もご覧ください。

スタッフ一同心よりお待ちしております。

(※作品は一部です。)

せんしょう庵 若 林 喫茶をご愛顧いただきありがとうございます
す。

当店では従業員の検温、マスクの着用、手洗いと消毒の

徹底、定期的な換気を行うとともにテーブルや椅子などの

消毒も徹底しております。

お客様同士の間隔も開けてご案内致します。感染対策を万全にして元気に営業しております。

せんしょう庵では、就労を希望されている方の見学を随時受け付けていますのでお気軽にご相談
ください。



えいぎょうじかん
営業時間 10:00~16:00 (ラストオーダー15:30)

ていきゅうび
定休日 日曜日、月曜日、祝日の翌日

ねんまつねんし
年末年始 (12月28日~1月4日)

※イベント等により貸切を行う場合があります。

| | | |
|---|--|--|
| 5 | そうだんしえんじぎょう 相談支援事業 『8050問題』～住み慣れた地域で安心して生活するために～ | しゃかいふくしほうじん 社会福祉法人 きょうせいふくしかい 共生福祉会 |
|---|--|--|

『8050問題』という言葉をご存知でしょうか。80代の親が50代の子供の生活を支えるという問題です。背景にあるのは子供の「ひきこもり」で、ひきこもりという言葉が社会に出始める様になった1980年代～90年代は若者の問題とされていましたが、約30年が経ち、当時の若者が40代から50代、その親が70代から80代となり、こうした親子が社会的に孤立し、生活が立ち行かなくなる深刻なケースが目立ち始めています。ひきこもり状態の子の中には障害があり、長年家族だけで介護しており、行政や支援に繋がらず生活を送られている方もおり、親御さんが高齢になり介護の負担が増えてもどこに相談したらよいか分からず、相談の声を上げる事が難しい方もおられると思います。相談支援事業所は地域生活を送る上で必要な障害福祉サービスの調整や、地域の中でその方らしく生活が送れる様、支援を行っています。親御さんのケアマネージャーを通じて障害のある子や世帯の相談を受ける事もあり、住み慣れた地域で安心して生活が送れる様、支援を行っています。

| | | |
|---|--|--|
| 6 | じへいしょうじしやちいきせいかつしえんじぎょう せんだいしへいしょうそだん 自閉症児者地域生活支援事業 仙台市自閉症相談センター はたら え きゅうよ つか みち 働いて得た給与の使い途 | ほうじん NPO法人 じへいしょう 自閉症ピアリンクセンター ここねっと |
|---|--|--|

※この記事は、発達障害当事者の方が、ご自身の経験や想いを振り返り、作成したものです。働くようになってから、毎月一定額の収入が見込めるようになりました。ですので、引きこもり中には負担のかけ通しでした母へのせめてもの恩返しとして、新聞代や光熱費など必要経費の一部をささやかながら払わせていただいている他、本購入など自らの趣味にも気兼ねすることなくお金を使っております。ただ、発達障害当事者の特性である中枢性統合の弱さ、すなわち、物事をトータルで捉えることへの苦手さは続いており、好きなことへの支出に傾いてしまうあまり、貯金は相変わらずです。そこで、視覚的に考えるという特性、つまり、文字情報をイメージとして理解しようとする当事者の傾向を踏まえグラフや図などで自分のお金の使い方を把握するよう努めているところです。その結果、フィギュアやクリアファイルなどアニメグッズの購入に充てる金額が相当な割合を占めていることに気づき、欲しいものの衝動買いをなるべく控えるようになりました。模索は続きます。

7

インフォメーション

しゃかいふくしほうじん
社会福祉法人
せんだいししょうがいしゃふくしきょうかい
仙台市障害者福祉協会

わたし す せんだい まち ふくし かん
私たちが住む仙台の街には、福祉のまちづくりに関して、

こんな歴史があることをご存じですか？

じだい ねん しょうわ ねん さかのぼ きせつ なつ にした が はたら くるま りようしゃ
時代は1969年(昭和44年)に遡ります。季節は夏。西多賀ワークキャンパスで働く車いす利用者
とうほくふくしだいがく がくせい せんだい はんかがい で さい はな
と東北福祉大学の学生ボランティアが、仙台の繁華街に出かけた際の話です。

くるま りようしゃ とうじ まちなか ほどう だんさ ぶつりてき しゃかいてきしょうがい たくさん
車いす利用者にとって、当時の街中は、歩道の段差やトイレなど、物理的・社会的障害に沢
で あ な ぜ まち なか こま おお げんいん さが
出会うこととなります。何故、こんなに街の中は困ることが多いのか？この原因を探すことから、
「生活拡張運動」が顕在化していきます。そして、障害者が他のの方々と同じように、また一緒に街
せいかつ ちやくがん ねん しょうわ ねん がつ にじ ほっそく どうねん
で生活できるということに着目し、1970年(昭和45年)10月に「グループ虹」が発足されます。同年、
が つ とうほくしんかんせん せんだい の い ともな しんせつ せんだいえき くるま りよう
11月に東北新幹線の仙台乗り入れに伴って、新設される仙台駅を車いすでも利用できるように
ちょうさ けんきゆうかつどう おこな ねん しょうわ ねん がつ にじ しんせんだいえき かん ようぼうしよ
調査・研究活動を行い、1971年(昭和46年)7月に「グループ虹」によって、新仙台駅に関する要望書
けん しんかんせんこうじきよく ていしゆつ どりよく み むす あたら せんだいえき げんざい
を県や新幹線工事局などに提出されたそうです。このような努力が実を結び、新しい仙台駅は、現在
すがた になったということだと思えます。

こうした活動は、同年11月に三越デパート仙台支店において、車いす使用者も利用できるように
かい かつどう どうねん がつ みつこし せんだいしてん くるま しょうしゃ りよう
4階にあるトイレを改修し、全国に先駆けて前身的な「多目的トイレ」の第1号が設置されること
にもつながりました。このことを皮切りに、県庁や市役所などでもトイレの改修やスロープが設置
けんみんかいかん しみんかいかん せんだい まちなか か すず
され、県民会館や市民会館、スポーツセンターなど、仙台の街中ではバリアフリー化が進んでいきま
た。また、道路に関しても、現在ではあたりまえになっており、誰も気に留めることはありませんが、
とうじ ほどう しゃどう だんさ つうじょう だんさ けず と か すず
当時は歩道と車道には段差があるのが通常でしたが、その段差が削り取られてスロープ化も進め
られました。当初は、学生ボランティアなどが段差のある歩道などに鉄板を設置し、スロープにしたこ
とが始まりであったそうです。そして、1973年(昭和48年)に、仙台市は厚労省から身体障害者福祉
としじぎょう してい う どうねん がつ ふくし くるま しみんこうりゆうしゅうかい りやくしゅう かいさい
モデル都市事業の指定を受け、同年9月に「福祉まちづくり、車いす市民交流集会(略称)」が開催
されました。

このように、私たちが住む仙台の街には、バリアフリーの取り組みに関して、半世紀余りの歴史が
あります。近年でも、仙台市営地下鉄東西線が障害のある方々の意見を随所に取り入れられながら
けんせつ けんせつ れきし ぶんか せんだい はんかがい せんだいし ころうしゅう しんたいしょうがいしゃふくし
建設されたのも、こうした歴史と文化があったからこそではないかと思えます。古い時代から先進的
ふくし と く せんだい まち しょうがい かた とも かんが
に福祉のまちづくりに取り組んできた仙台の街ですが、障害のある方もそうではない方も共に考
えていくということがとても重要なことであったのだと感じます。

わたし わかばやししょうがいしゃふくし いまいちどわたし す まち みまわ だれ す
私ども若林障害者福祉センターも、今一度私たちが住む街を見回しながら、誰もが住みよい
ふくし かん かな いっしょ かんが おも
福祉のまちづくりに関して、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

お問い合わせ先 仙台市若林障害者福祉センター

〒984-0824 仙台市若林区遠見塚東8番1号

TEL: 022-294-0450 FAX: 022-285-2430

Eメール: office-wa@shinsyou-sendai.or.jp